

# せたがや福祉区民学会第13回大会 大会総括

世田谷区福祉人材育成・研修センター長 瓜生 律子

皆様、せたがや福祉区民学会第13回大会にご参加いただきありがとうございます。

この学会は、平成21年12月に区民福祉の向上を目指して、世田谷区の福祉事業所で働き、学び、研究する者と区民、行政で構成され、会員が一体となって相互に対等な立場で、福祉実践活動の課題や工夫についての研究発表、学びあう場として設立されました。

この間、大雪で中止となった回はありましたが、昨年度のコロナ禍にもかかわらず、継続して開催され多くの方に発表いただき、今回で累計662事例の発表をいただいております。

新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちの生活は大きく変わり、2年経過した今なお、終息の兆しは見えません。そのような中で、今年度の第13回大会もWebで開催いたします。

基調講演は医師であり本学会の長谷川 幹会長から「高齢者も障害のある人も“支援と環境”で変わる!!」と題し、世田谷での40年にわたる医師として、また、様々な地域活動について、事例を通してお話いただきました。「重度の脳梗塞の方も“あるきっかけ”で改善する」「骨折でも寝たきりは防止できる」「内発的動機づけによる『自己決定』が大事」「医療・保健・福祉の従事者は『あせらず、あきらめず、実践から学ぶ』姿勢が重要」「小さなことでもいいので『障害があってもできる体験』を積み重ねていくことが大事」

「時間はかかりますが、本人の主体性を尊重することで様々な可能性に挑戦し、変わっていく」「支援者は本人の主体性が現れ能力が向上することを考える必要がある」「『受け手』でありながら、『支え手』となることが重要な視点で、地域や後輩に発信することで、その延長線上に地域の『支援者』が増える」という示唆に富むご講演をいただきました。是非、今一度、ご講演をご覧いただければと思います。

今年度から学会理事に2人の大学生の参画により、若者の視点により学会のさらなる発展が期待できます。今大会では、2人の学生理事と6人の学生実行委員により「希望をもって暮らし続けられるまちとは」をテーマにZoomを活用して、ワークショップを開催します。令和3年10月から学生と事務局職員とでZoomで打ち合わせを行い、ワークショップは、学生理事による「視覚障害とは？みんなが暮らしやすい社会に向けて」の講話のあと、「暮らしやすい社会」について、みんなで話し合うこととなりました。進行も学生理事・学生実

## せたがや福祉区民学会

学びあい、広げよう せたがや福祉の輪  
「希望へつながる 新たな一歩」

---

### 第13回大会のご案内

※新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、Web等を活用し開催します。

公開期間

令和4年2月19日(土)～令和4年3月18日(金)

基調講演

長谷川 幹氏 (三軒茶屋内科リハビリテーションクリニック院長)  
(せたがや福祉区民学会会長)

(申込先)  
ワークショップ

「高齢者も障害のある人も“支援と環境”で変わる!!」  
「希望をもって暮らし続けられるまちとは」(Zoom開催)

参加方法

発表事例集閲覧、動画視聴、アンケート提出  
<https://www.setagaya-jinzai.jp/society>

大会初日 Zoom

○ワークショップ先着100名  
○申込先 世田谷区福祉人材育成・研修センターホームページ  
○締切: 2月12日

基調講演・ワークショップ

Web

○発表事例集 動画もWeb配信。ご自宅でも視聴できます。

○発表事例集 動画のダウンロード

○記録

○皆様の声・ご意見などお寄せください。

○ワークショップ記録  
○皆様の声の集約

事務局

世田谷区福祉人材育成・研修センター  
TEL: 03-6379-4280  
FAX: 03-6379-4281  
<https://www.setagaya-jinzai.jp>

主催: せたがや福祉区民学会  
協力: 社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団  
後援: 世田谷区  
社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会

発表事例集 郵送

Web配信

会場へ郵送

行委員が行います。結果は「13 回大会報告」でお知らせしますのでご期待ください。

実践研究では、コロナ禍で人と人のかかわりが制約される中で、様々、工夫しながらの取組みについて7分科会に49事例の発表をいただきました。

還暦を迎え IT 業界から職業訓練校を経て福祉作業所に入職された方からは、「感謝の言葉を直接もらえる機会があり働く原動力や喜びに繋がっている」と、福祉の仕事の魅力について発表いただきました。また、「デイサービスと旅行業界と連携してオンラインで観光地とを繋ぎ旅行気分を味わいながら思い出を語りあう」新たな取組みや「コロナ禍にあっても地域に根差した活動、最後は人と人とのつながりが重要」「今、何ができるかを考え前に進んでいる」「地域を包括的にとらえる地域共生社会に向けた取組み」「チームケアや ICT、介護ロボット」など発表は多岐にわたっています。

助言者からは、「学会の発表で取組みの振返りがきちんとできたことは有意義で、実践の中から、課題の発見・分析、対策の計画、解決策の実行、結果の評価が行われています」「コロナ禍を世代やセクターを超え一緒に乗り越えた経験は、地域の未来を創る大きな財産となり、学会で発表された取組みが世田谷の各地に広がることを期待します」「様々な取組みが検証されて、その結果が事業に活かされると本学会の意義が高まります」と、高く評価をいただくとともに、今後の課題もご示唆いただきました。世田谷区の福祉がさらに向上していくためにもこれらの素晴らしい取組みを多くの方に知っていただけるよう、参加者を増やすなど学会の発展に努めてまいりたいと思います。

「発表事例集」とホームページの視聴とあわせ、皆様のご質問・ご意見・ご感想をお寄せいただき、それに回答する形で交流を深めてまいります。後ほど、「13 回大会報告」としてまとめ、Web 配信いたしますので、是非、ご質問・ご感想等をお寄せください。

今回のテーマ「希望につながる 新たな一歩」にありますように、様々な取組みが、さらに前進していくことを期待しています。来年はぜひ、対面で開催し、本学会がさらに発展していくことを祈念しまして、第 13 回大会の総括とさせていただきます。

**第 14 回大会は、令和 4 年 12 月、駒澤大学にて開催を予定**しています。コロナ禍が終息して、是非、皆様と対面で「せたがや福祉区民学会」を開催したいと思います。

最後になりましたが、今回、大変な状況の中、発表をいただいた皆様、お忙しい中、貴重なコメントをくださった助言者の皆様、多くの協賛企業の皆様。皆様のご協力により、大会が開催できましたことに、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

